



## 未来を見据えた業界の資格者確保

～資格試験対策講習会を通じたの取り組み～

電気工事業界では、近年、技術系に就職する若者の減少や社員の高齢化などにより「電気工事士」の不足が叫ばれている。電気工事士免状は電気工事の作業に従事するための資格で、電気工事業者にとっては必須のもの。経産省の調査では、2020年頃の電気工事士の想定需要に対し、全国で約5万人の資格者が不足するという試算も出ている。

電気工事業者で組織する山梨県電気工事工業組合(金丸正幸理事長 組合員319社)では、組合員の有資格者を増やし受注機会を確保することを目的に、これまでも電気工事士の受験準備講習会(認定職業訓練校を取得し、実施。)を開催してきた。組合主催の講習会受講者の電気工事士合格率は、全国平均の約60%程度に対し約80%と非常に高くなっており、組合員からの評価も高い。

高い合格率の秘訣は、組合が行う講習会の実施内容にある。他団体等でも同様の講習会を開催しているが、短期間で試験対策のみを行っているのが実態である。組合では電気理論の基礎からしっかり学ぶ講習内容となっており、幅広い知識を習得して

## 山梨県電気工事工業組合

もらうことで合格率を高めるだけでなく、実際の工事現場での応用がきく人材が育ち、将来の電気工事業界を支える人材の育成に繋がっている。

また、当業界では人手不足に対応するため、これまで通例として工業高校等からの就職に限っていた

人材採用の門戸を、電気工事に関する知識が全くない一般の人材に広げ始めている。それに加え、組合員企業でも電気技術以外で当業界に就職した人材が資格を取得することにも力を入れ、資格者の確保を始めている。こうした取り組みの成果として、組合の講習会にも実際に電気工事に携わったことのない社員や女性社員などの受講者も増加傾向にある。

組合では、今後もこうした取り組みを継続し、組合員だけではなく電気工事業界全体の担い手の確保・育成に取り組み、未来を見据え、業界の維持と発展に繋げていきたいと考えている。



実技講習の様子